

北京オリンピック大会をめぐる評価の類型とその特性

中 村 祐 司

I. 評価対象と評価スタンスの設定

北京オリンピック大会(第29回夏季オリンピック大会。以下北京五輪と略)は2008年8月24日夜の閉会式をもって終了した。同年8月8日から17日間にわたって28競技302種目が繰り広げられ、204カ国・地域から約1万1,200人の選手が参加した。本研究では、オリンピック史上最大規模といわれた今大会をめぐるメディアによる総括的な評価内容に注目した上で、評価対象領域と評価スタンスという2つの軸の設定を通じて類型化し、さらにその特性を探ることとする。

北京五輪をめぐるのは、その開催以前から国際舞台での国家間摩擦や調整のねじれなどから、中国に関わる国際政治・経済の諸課題があたかも凝縮された様相を呈した。また、文化面においても欧米の価値観と台頭著しいアジアの大国の価値観とがぶつかり合う場面も見られた。また、大会運営を成功させるための準備段階での政府管理やメディア規制、さらには社会・自然環境の改善をめぐる中国国内の評価と国外のそれとは大きく分かれた。大会終了後の評価についても基本的には中国国内では賞賛一色であったのに対して、国外では肯定や認知と同時に批判や問題の指摘がなされた。こうしたいわば両面兼ね揃えたような評価が噴出した状況において、とくに北京大会終了後の評価内容を中心に把握するために類型化し、その特性を探る試みには一定の意義があるように思われる。

そこで本研究では、北京大会をめぐる両面性を有した評価(主として中国外のメディア報道)の典型として、大会終了後の日本のメディア報道(欧米メディアによる評価の紹介も含む)を主な素材とした考察を行う。具体的には30弱の情報源から、各々の記述における価値評価記述の箇所をピックアップする検討作業を通じて、これらを6

つの評価対象領域の軸と4つの評価スタンスの軸から類型化する。すなわち、評価の対象として「政治領域」「経済・市場領域」「文化領域」「大会運営領域」「メディア領域」「社会環境領域」の6種類の軸を、評価スタンスとして「ネガティブ評価」「準ネガティブ評価」「準ポジティブ評価」「ポジティブ評価」の4種類の軸を設定した。

ここでいう「ポジティブ(positive)」とは北京五輪を明確に肯定・賞賛する類の評価内容である。「ネガティブ(negative)」とは大会に関連の政府行動も含めて明確に否定的・批判的に捉える評価内容を指す。この両極の評価にあるのが「準」が付随するネガティブ・ポジティブ評価である。「準ポジティブ」とは明確な批判の言い切りないしは断言ではなく、ニュアンスとしての批判性の色濃いものや、改善点を付する形での批判、さらには「こうすればよくなる」といった注文を付ける批判内容を指す。「準ネガティブ」は肯定評価・賞賛評価一辺倒ではなく、何らかの注文や示唆的な批判が盛り込まれているものを指す。準ネガティブと準ポジティブとは前者がポジティブ要素を、後者がネガティブ要素を盛り込んだ場合に評価内容の一部が交錯する。

以下、6つの評価対象領域における北京五輪をめぐる評価内容をポジティブ評価(「準」も含む)とネガティブ評価(同)に分けてまとめた(前者を内容とする段落の末には「P」を、後者の場合には「N」をカッコ書きとした)。

II. 政治領域の評価

—国家の威信と強力な国内統制—

中国は開催国としての威信を示し国力を世界にアピールした。北京五輪を終えた中国は大国としての地位を確立した。テロは生じず国家のメンツを懸けて演出した宴は成功裏・平和裏のうちに終

わった。北京五輪は中国の改革・開放の新たな発展のステップとなった。韓国は1988年の五輪以後に民主化を大きく進め、経済でも開発途上の域を脱して飛躍的な発展を示したのと同様に、すでに経済発展の顕著な中国も五輪を機に民主化や開放の方向へ大きく進むと予測できる。日本も五輪以後、経済大国への道を躍進し民主主義を成熟させていった。中国がこれほどの国際行事をこれほど盛大に成しとげたことは、中国選手の大活躍と合わせて国際社会での中国の存在感を間違いなく高める。これからは大国としての自信を新たな国際貢献に向けてほしい。(P)

国内外に大国化をアピールする政治的意図によって統制されていたのが、まさに13億国民を一つにまとめ上げた五輪の夢そのものであった。中国の大前提は一党体制の維持であり、政治面では国際標準に遠い。愛国主義の高揚は中国の国際標準を促すのか、妨害するのか分からない。中国は五輪招致の際、表現の自由の拡大や人権問題の改善を約束したが守らなかった。米大統領ら多くの国際的指導者の五輪出席は、政治的抑圧が続ける中で中国共産党の支配を世界各国が支持したことを意味する。中国当局は五輪成功を影響力の増大に使い、国内統制がさらに強化される危険もある。中国政府はいかなる譲歩も申し出ることなく五輪の成功を懐に入れた。開会式の前後に新疆ウイグル自治区で少数民族の過激派による武装警察などへの襲撃やテロがあり多数が死傷した。北京の五輪公園周辺では数回にわたり、欧米の人権活動家らが「チベットに自由を」などと書いた横断幕を広げ、そのたびに警官に排除された。(N)

政府の成功はナショナリズムの管理にも及び、このことは五輪主催が中国の政治力学（中国共産党の独裁統治メカニズムの効率と威力）を基本的に変形させる動因とはならないことを意味する。少数民族の問題、言論や報道への締めつけなど、開催決定から7年経過しても改善されなかった。市場経済化を進め、豊かさを手にしたが、政治改革は後回しにされてきた。今後は国家目標を効率よく実現する中国式統治への肯定論がいつそう叫ばれるかもしれない。激しい格差や役人の腐敗などへの民衆の不満をいつまでも力で抑えることは可能なのだろうか。世界は急速に台頭する中国に

どう向き合えばいいのかという疑問も投げ掛けた。北京五輪は中国共産党指導部が前面に乗り出した政治の祭典そのものだった。(N)

Ⅲ. 経済・市場領域の評価

—発展の見通しと懸念—

中国は経済大国へ発展を続けている。2007年、北京市の経済総量は7年前より倍増し、年平均伸び率は12.4%に達した。一人当たりGDPは01年の3,262ドルから7,654ドルまで増え、08年は8,000ドルを突破する見込みである。この間、都市部住民の一人当たりの可処分所得は年平均10%以上伸びている。ここ数年、北京の産業構造は健全化し、サービス業の増加はGDPの7割以上を占めた。さらに北京は積極的にグリーンオリンピックの理念を貫き、省エネや廃棄物削減に力を入れ、著しい成果を収めた。(P)

日韓両国では五輪開催当時、東京、ソウルがそれぞれ国内総生産（GDP）の2割以上を占めていた。北京の場合、中国全体のGDPに占める割合は約4%に過ぎない。北京五輪の経済効果について数字的には小さく、試算では08年のGDPに対して0.25%の押し上げ効果があるにすぎず、10%前後の経済成長が続いている現状から見ると、取るに足らない誤差の範囲の数字である。経済効果が小さい分、反動も小さいので北京五輪は極めてコンパクトな大会と位置づけられる。五輪閉幕後についても、五輪不況は国経済の低迷による輸出の減少や、引き締め政策の影響が出るかもしれないが、五輪後の経済不安は根拠がない。北京五輪が中国に与えるインパクトは、経済的側面より社会的・文化的側面（社会意識の変化やスポーツの大衆化）のほうが遥かに大きい。(P)

中国の実質成長率は07年が11.9%で、5年連続2ケタ成長を記録したが、08年1—6月期は10.4%とやや減速した。サブプライムローン問題による対米輸出の鈍化に加え、北京周辺の大気浄化のため建設工事や工場の操業を一時停止した影響などもあって、7-9月期はさらに減速する可能性もある。鉄鋼、コンクリートなどの大気汚染の原因とみられていた工場は、政府から通常の5～7割の減産を命じられた。北京市の7月の住宅販売数は、前年同月比63.6%減で不動産市場の先

行きも暗い。中国株は「五輪祝儀買い」もなく五輪が開会した8月8日から急落した。都市部の不動産価格は年初から25%余りも下落し、上海株式市場の株価指数はピークだった昨秋の約3分の1に下落した。このように北京五輪後の中国の経済は容易ではない。世界的な景気の後退や労働コストの増加などで頼りの輸出が減速し、物価は上昇し、株価は下がり続けているからである。(N)

国際標準化は経済分野以外進まなかった。五輪後の経済失速への懸念が広がっている。不動産価格や株価の下落は北京五輪が原因との見方もある。五輪による交通規制で北京周辺の農村では市内への農産物の出荷ができず作物は腐り放置された。出稼ぎ者は北京から閉め出されて現金収入がなくなった。北京市の日系企業は7月から9月の2カ月間の交通規制により原材料や製品の出荷ができず、生産を停止した。日系企業で打撃を受けている中小企業は少なくなく五輪倒産もありうる。(N)

IV. 文化領域の評価—誇りの提示と不満の表出—

北京五輪は多くの中国人にとって誇らしい大会であり、世界の人々にとっても北京を選んだことは正しい決定だったと思うだろう。「一つの世界、一つの夢」すなわち、世界大同の理想主義への人類の願望に一步近づいた。北京五輪の大展開は中国の国民大多数に自国への誇りや自信を強めさせた。民族意識や国家意識の感情的な噴出につながりかねない高揚についても、中国当局は競技の場で国民によるナショナリズムの情緒的な露出を抑えることに成功した。さらに、中国国民レベルで、四川大地震が外国の人道支援を受けた経験とあわせ、外国の価値観を知る機会になった。(P)

「人間の尊厳保持に重きをおく、平和な社会を推進する」との理想をうたうオリンピック憲章に照らせば、北京五輪を合格と評価するには留保がつく。世界は貧富の格差、発展の溝、文化の違いなどで断絶し、それぞれの夢も異なる同床異夢である。五輪の競技種目の多くで見られたのも、階層、貧富、性別、肌の色などによる違いである。北京五輪が世界に示したのは、金メダルの量産を含め、中国の情熱と執念であり、実際のところ「一つの世界」の理想追求というより、「百年の

夢」の実現に国の威信と民族の誇りがかかっていた。中国の標準を国際標準に、との議論も起こるほど愛国主義が高まってしまった。また、「北京五輪は人民の苦痛のうえに成り立っている」「税金が使われているだけ」といわれるように、経済の先行きの不透明さに対する不安や憤りの矛先は五輪そのものに向かったことも事実ではないだろうか。(N)

V. 大会運営領域の評価

—成功の誇示と気負いの露呈—

北京五輪は成功裏に幕を閉じた。豪華な施設建設と金メダルラッシュによって、国の威信と民族の愛国心を高める狙いは奏効した。スポーツの祭典としては壮大、華麗、そして躍動をきわめた催しであった。各種目で行ってきた強化策が実を結んだ。最多の金メダルは、興隆する国力の象徴となった。開会式の歴史絵巻は「大中華復興」を成し遂げたという自負心を誇示するものであった。圧倒的な人の数や訓練を積み重ねた技量が披露された今回のイベントを実行できる国は他に見あたらない。課題山積といわれたが、ふたを開けてみれば大会は平穩に進んだ。各会場で世界記録が相次いだレベルの高い大会であった。閉会式は祝祭の終わりにふさわしく、選手もボランティアスタッフも入り乱れてのカーニバルが見事であった。ドーピング（禁止薬物使用）は過去最大規模の4,500件の検査を実施した。判明した陽性反応は6件にとどまっており、IOC会長も不正撲滅への取り組みが抑止力になったとしている。(P)

北京五輪は運動競技の記憶の上で驚くべき収穫があった。金メダル獲得競争を独走した中国選手団の活躍も五輪史に刻まれた。運営自体に支障をきたす大きな混乱はなくこれも中国政府や五輪関係者の努力のたまものである。この巨大イベントの運営で「対外開放に自信」「中国人は世界の信任を得た」という自己採点も聞こえてくる。開会式が史上最大の「ショー」だと思わずに、「実演」と頭から信じ切っていたから「だまされた」と感じてしまうのである。自分たちが暗黙のうちに思いこんでいた「常識」と違っていただけから「ルール違反」と思って批判してしまう。今回の開会式のあり方を巡る議論や批判は、商業化により派手に

なったオリンピックのあり方を考え直す良い機会になったのではないか。(P)

17 日間のスポーツの祭典は、大国化する中国の躍動感と、国家の威信を優先させた虚栄が入り交じったものであった。選手育成や資金投入など国家丸抱えによる金メダル至上主義は、確かに成果を上げたかもしれない。しかし、開会式での偽装は全体主義国で五輪を開催する難しさを露呈した。少女に「口パク」で革命歌曲を歌わせた開会式の過剰演出、合成花火映像、多くは最大民族漢族が扮した「56 民族の子供」などがそれである。子供を使ってまでの国威発揚の演出の数々、観衆のマナーを加工する「文明応援隊」の大動員など、「百年の夢」だった五輪開催の気負いが目立った。大会の成功を願うあまりとはいえ、少々やりすぎだった。競技施設を惜しみなく建て、人を大量に動員する。そんな豪華な五輪は今回の中国が最後であろう。(N)

力による押さえ込みは、世界各地で起きた聖火リレー攻防戦において露骨だった。中国政府は北京五輪期間中、1 日当たり警察官約 10 万人、軍隊約 4 万人を動員した。主要競技場周辺には地对空ミサイルが配置され、全体で約 30 万台もの監視カメラが設置された。「国益のため」という国家主義の横顔が随所に色濃く出た。(N)

VI. メディア領域の評価—規制を最優先—

北京五輪取材した外国報道陣は約 2 万 2,000 人に及んだ。中国がかつてない規模で外国報道陣を受け入れた現実によって、国家監視下の「表現の自由」に風穴を開けることへの期待感に残された。(P)

2012 年ロンドン大会では、空席を埋め、報道陣へのインターネット接続を許可し、デモ申請者を刑務所に入れないようにすれば北京の水準を超えるのは簡単である。北京では、開催国が最優先すべきである報道・言論の自由と人権が完全に保障されていたかどうか疑わしい。中国当局が五輪取材の報道陣に対して公言したインターネット規制の全面解除は五輪終盤になっても実現しなかった。北京五輪組織委員会は、「デモは問題解決のためであって、デモのためのデモであってはならない」という回答を繰り返すのみであった。襲撃

事件などを取材する外国人記者の拘束や取材妨害が相次いだ。プレスセンターでは、英 BBC の中国語版や国際人権擁護団体「アムネスティ・インターナショナル」など、中国に批判的な情報が発信される複数のウェブサイトが閲覧不可能になった。(N)

VII. 社会環境領域の評価—肯定と否定の混在—

北京五輪の開催は北京市の発展や、インフラ施設の整備、消費の増加を促し、対外開放や国際協力を推し進め、一般市民に切実な利益をもたらした。市内の地下鉄では年配の外国人に積極的に席を譲る学生の姿も見られた。終了後の北京五輪効果の定着が期待できる。ボランティア精神や公民意識の覚せいには五輪がもたらした収穫である。「文明五輪」を掲げた中国は、五輪前から「列に並ぶ」「タンやツバは吐かない」など市民へのマナー教育を徹底した。会場周辺では、道案内のボランティアらが、ぎこちないながらも外国人に笑顔で接した。若いボランティアの多くは柔軟でしなやかだった。世界も中国も五輪によって互いを肌で知った意義は大きい。厳しい警備に対し、北京市民の間では「100 年に一度の五輪を成功させるため、小さな貢献をする必要がある」といった理解を示す声が大半であった。(P)

北京の大気汚染に関しては、交通規制や工場操業停止ではほぼ良好な大気状況が維持された。今後、中国は温暖化対策でも大きな役割を担えるはずである。オリンピックのためのインフラ建設の相当部分は、環境改善に注ぎ込まれた。7 年間に北京では全長 290 キロに及ぶ河川改修が行われ、9 カ所の污水处理工場が建設された。これによって市内の污水处理比率は 92% になったといわれる。ごみの埋め立てや燃焼工場も整備され、都心部のゴミ無害化処理率は 99.9% まで向上した。北京市民の所得も大幅に向上した。02 年から 07 年の間、北京市民の 1 人当たり所得水準は年平均 11.5% も伸び、07 年に北京市民の可処分所得は 21,989 元になった。(P)

巨大施設の建設のための住民や労働者への強制処遇、事前のチベット、ウイグル族らの弾圧、そして政権への苦情を訴える一般住民や民主主義、宗教の活動家の除去などが相次いだ。北京五輪施

設周辺だけで軍や武装警察も含めて11万人もの治安要員が駆り出された。当局は大会中にデモができる場所として北京の3カ所を指定した。だが、住民が実際に申請すると処罰されたといわれる。大会期間中77件のデモ申請がありながら、1件も許可されなかったことが判明した。市民には厳重な警戒態勢に対する不満があった。(N)

中国当局は対外イメージの悪い中国人のマナー改善教育に躍起（テレビの人気番組が「正しい応援のしかた」という特番を組んだほど）になり過ぎた。観衆の「中国・加油（がんばれ）」という偏った叫びは、排他的な過激ささえ感じさせた。国際世論が中国に期待したのは、チベットなどの少数民族問題、環境破壊問題、人権抑圧問題などを知恵と対話で解決する寛容な国の姿であったはずだ。経済格差、少数民族、環境など諸問題は、多元化する利害や自己主張に見合った新たな問題解決の仕組みを必要としている。共産党政権の正統性のよりどころである「経済発展」が担保できなければ、人心は離反し、社会不安は一層強まるのではないか。北京五輪で高まったナショナリズムと、困難な経済運営は、中国指導部にとって大きな試練となる。(N)

VII. 北京五輪をめぐる評価類型の特性

以上のように政治から社会環境までの6つの対象領域ごとに情報源の内容をポジティブな側面とネガティブな側面とに仕分けしてきた。こうした検討作業から北京五輪をめぐる評価類型を図式化したものが表1である。

6つの縦軸の評価対象領域は個別独立の領域としてあるのではなく、各々は相互に交錯し影響を及ぼし合っている。社会環境領域の向上には政治のみならず経済や市場の力が欠かせないし、これらを支える人々の価値観（文化領域）がなければ進展はあり得ない。大会運営やメディア活動には伝達媒体など市場で調達される先進技術の機材が不可欠である。いわば、縦軸の評価対象領域は各々が渾然一体となっているのが常態であろう。

同様なことは横軸の評価スタンスについてもいえる。「準」とそうでない評価の違いは明確にはなり得ない。また、ポジティブかネガティブかの違いは状況や局面のどこを注視しているかの違いにあり、いわば他極の評価には「聞く耳を持たない」前提となっている。その意味では準ポジティブ評価と準ネガティブ評価の場合、両者は不可避的に表裏一体であり、準ネガティブを準ポジティブに転化させるためのあり方こそ、理論において

表1 北京オリンピック大会をめぐる評価の類型

評価スタンス 評価対象領域	ポジティブ評価	準ポジティブ評価	準ネガティブ評価	ネガティブ評価
政治領域	国家威信と国力の世界へのアピール	今後は民主化や開放の方向へ	中国共産党を世界各国が支持	政治面の国際標準と乖離
経済・市場領域	経済大国への発展に御墨付き	北京五輪は極めてコンパクトな大会	世界的景気後退と労働コスト増加	北京五輪後の経済失速への懸念
文化領域	自国への自信と誇りの涵養	ナショナリズムの露出抑制	五輪憲章に照らせば疑問	世界は文化的にも同床異夢
大会運営領域	壮大・華麗・躍動をきわめた大会	興隆国力の象徴としてのメダル獲得	メダル至上主義・過剰演出・大量動員	国益と国家威信の過剰な優先
メディア領域	多数の外国人報道陣受け入れ	表現の自由へ風穴	インターネット規制の全面解除なし	外国人記者に対する取材妨害
社会環境領域	インフラ、消費、ボランティアの大幅向上	良好な大気状況や社会環境改善の達成	国家統制による厳重警戒やマナー向上	経済格差、環境破壊、少数民族等の社会不安

も実践においても追求されるべきではないだろうか。

たとえば、政治領域においては、とくに競技選手参加の点など一国では北京五輪の開催自体が不可能である。各国は中国の現政治体制を容認した上で、北京五輪終了後の「民主化・開放」に向けたアプローチを継続する。経済・市場領域においては、北京五輪関連事業をめぐる労働コストの検証を行う中で、今後のコスト増加への対応を探り、「コンパクトな大会」の実践経験を生かす形での応用施策を展開していく。文化領域においては、五輪憲章でいうところの「人間の尊厳保持」を具現化する政策を、たとえ漸進的であっても徐々に社会階層に浸透させつつ、同時に国家ナショナリズム抑制との均衡を保持する。

大会運営領域においては、スポーツにおける競争性（メダル獲得の目標）に立脚しつつも、過剰演出や大量動員に対する批判には謙虚に耳を傾ける。メディア領域においてはインターネット規制をめぐる議論を具体的な規制対象サイトをめぐる各論に変容させ、その上で議論の積み上げを図っていく。そして社会環境領域においては、国家による統制型の社会環境制御の手法については、確かに理念レベルでは肯定できないものの、個別具体的な社会環境改善の達成のためには止む得ない側面もあったのではないかという見解を提示する。

加えて、評価スタンスの両極を「準」へシフトさせるためには、ポジティブ評価の理性的差し引きとネガティブ評価の対案を伴った批判の一定程度の抑制といった、まさに「スタンス」の変容が不可欠となる。いわば、両極から準評価へのシフトを経た上での準ポジティブ評価への収斂こそが各国の政府政策として目指されるべきである。

¹ 対象とした情報源はいずれもインターネット情報（日本語）であり、以下のとおりである（いずれも2008年8月現在）。（提供主体は①Yahoo ②毎日新聞 ③北京スポーツナビ④⑤⑥⑦⑧産経新聞⑨⑩朝日新聞⑪⑫⑬⑭⑮⑯毎日新聞⑰⑱朝日新聞⑲⑳21日本経済新聞22・23・24読売新聞25・26時事通信27サーチナ28・29日本経済新聞）。

① <http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20080824-00000062-mai-spo> 「＜北京五輪＞17日間の『宴』

に幕 2012年はロンドンで」。

- ② <http://mainichi.jp/enta/sports/general/general/news/20080825k0000m050056000c.html?inb=yt> 「北京五輪：IOC会長『運営』に満足 デモ対応に注文も」。
- ③ <http://beijing.sportsnavi.yahoo.co.jp/news/detail/200808250007-spnavi?tp=col> 「史上最大の祝祭の終わり」。
- ④ <http://www.iza.ne.jp/news/newsarticle/world/china/172504/> 「北京五輪 百年の夢のあと（上）独裁維持に愛国主義を利用」。
- ⑤ <http://www.iza.ne.jp/news/newsarticle/world/china/172304/> 「庶民が感じる『五輪不景気』」。
- ⑥ <http://www.iza.ne.jp/news/newsarticle/world/china/173020/> 「中国は『弾圧』でも金メダル欧米メディア総括」。
- ⑦ <http://www.iza.ne.jp/news/newsarticle/column/opinion/172593/> 「北京五輪閉幕 疑問残した中国流運営」。
- ⑧ <http://www.iza.ne.jp/news/newsarticle/sports/other/172688/> 「北京五輪 百年の夢のあと（下）非民主的国家構造の行方」。
- ⑨ <http://www.asahi.com/paper/editorial20080824.html> 「五輪閉幕へー北京に刻んだ歓喜と涙」。
- ⑩ <http://www.asahi.com/paper/editorial20080825.html> 「五輪後の中国—政治の改革へ一歩を」。
- ⑪ <http://mainichi.jp/select/opinion/editorial/news/20080825ddm005070025000c.html> 「北京五輪閉幕 中国は「和」の文字の体現を」。
- ⑫ <http://mainichi.jp/select/opinion/editorial/news/20080825ddm005070023000c.html> 「北京五輪閉幕 感動の続きはロンドンで」。
- ⑬ <http://mainichi.jp/select/opinion/yoroku/news/20080826k0000m070134000c.html> 「余録：五輪の「夢」の後に」。
- ⑭ <http://mainichi.jp/select/opinion/yoroku/news/20080825k0000m070105000c.html> 「余録：五輪の感動」。
- ⑮ <http://mainichi.jp/select/opinion/hasshinbako/news/20080825k0000m070106000c.html> 「発信箱：北京五輪 米の総決算」。
- ⑯ <http://mainichi.jp/select/opinion/closeup/news/20080825ddm003030174000c.html> 「クローズアップ2008：北京五輪閉幕 躍動と虚栄の17日間」。
- ⑰ <http://www.asahi.com/paper/column20080824.html> 「2008年8月24日付コラム」。
- ⑱ <http://www.asahi.com/paper/column20080825.html> 「2008年8月25日付コラム」。
- ⑲ <http://www.nikkei.co.jp/news/shasetsu/20080824AS1K2200724082008.html> 「転換期の中国を映し出した北京五輪」。
- ⑳ <http://www.nikkei.co.jp/news/shasetsu/20080824AS1K2300223082008.html> 「春秋」。
- ㉑ <http://eco.nikkei.co.jp/column/eco-china/article.aspx?id=MMECCj000022082008> 「オリンピックは成功したか？——中国の素顔を見せた北京五輪」。
- ㉒ <http://www.yomiuri.co.jp/editorial/news/20080822-OYT1T00629.htm> 「ソフトボール また五輪で熱戦が見たい」。
- ㉓ <http://www.yomiuri.co.jp/editorial/news/20080824-OYT1T00642.htm> 「五輪後の中国 祭りが終わって試練が始まる」。

- ②④ <http://www.yomiuri.co.jp/editorial/news/20080824-OYT1T00648.htm> 「北京五輪閉幕 次世代にバトンをどうつなぐ」。
- ②⑤ <http://sports.jiji.com/beijing/> 「中国初の五輪、混乱なく閉幕」。
- ②⑥ http://sports.jiji.com/cgi-bin/beijing/c?t=contents_history0807&k=history_files1 「五輪ヒストリー 北京五輪特集」。
- ②⑦ http://2008.searchchina.ne.jp/disp.cgi?y=2008&d=0803&f=national_0803_022.shtml 「北京五輪：北京市政府、五輪は北京の発展を加速」。
- ②⑧ <http://bizplus.nikkei.co.jp/colm/xu.cfm?i=20080805c7000c7&p=1> 「北京五輪にかける中国人の思い・それをつかむ企業」。
- ②⑨ http://www.nikkei.co.jp/china/interview/20080819cdb8j000_19.html 「五輪経済効果はわずか・社会的変化に注目を」。

(本稿は文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (C) の助成を得て執筆された)

The Valuation Types and the Characteristics of the Beijing Olympic Games

NAKAMURA Yuji

Abstract

This paper is to clarify the valuation types and the characteristics of the 2008 Beijing Olympic Games. The mass media's Beijing Olympic reports are classified in the 24 types. Vertical line ("valuation subject") of the valuation chart is classified in the 6 field types: politics, economy and market, culture, games management, mass media and social environment. Horizontal line ("valuation stance") of the valuation chart is classified in the 4 field types: positive, semi-positive, negative and semi-negative.

The each 6 fields in the vertical line have reciprocal relationships. For example, the improvement of social environment needs not only political power but also economic and market power. Positive valuations and the negative valuations in the each 4 fields in the horizontal line are two sides of the same coin. And it is possible to shift semi- negative valuations to semi-positive valuations. We have to try to materialize these shifts. At the same time it is necessary for us to shift positive valuations to semi-positive valuations, and to shift negative valuations to semi-negative valuations: converge on semi-valuations.

(2009 年 5 月 26 日受理)